

6月定例議会一般質問（要約）

議会だより

竹谷 実 議員

質問 船引運河について

船引運河は完成してから来年で100年を迎える。

大正3年6月に着手、延長340m、底幅5.5m、水深1.65mの運河が翌年大正4年3月に完成した。

また、昭和39年には50年ぶりに拡幅工事が行われた。

「西ノ島の今昔」によれば、村づくりの軌跡、有史以来、最大のプロジェクトと記されている。

わが町の基幹産業には欠かせないものであるにも拘らず、余り語られず検証されていないように感じる。

これを機会に後世に残すような企画などに取組む考えがあるのか伺う。

回答 町長

当時は、島の中央美田湾の奥深く僅か300mの陸地を残し、内海と外海に隔てられ、外海に出ること自体、大変な時間と労力を使い、外海に折角の良い漁場を持ちながら充分に活用することができない状況に

あったようである。

こうした状況の中、漁業振興に不可欠な事業として船引運河の開削工事が必要であるとの強い信念から、当時の黒木村長の提案で黒木・浦郷両村が共同で、村史始まって以来の歴史的プロジェクトに取り組んだものである。

その後、昭和39年から離島振興事業で運河改修工事が行われ、航路幅員は12mと当時の倍ほどに拡幅され現在に至っており、漁業・観光・航海の利便性など現在でも多大な恩恵を受けている。

西ノ島の歴史を語る上で、この一大プロジェクトであった運河が完成するまでの経緯や並々ならぬ関係者の努力、本町の基幹産業などに大きく貢献していることなど、広く知ってもらうことや運河をもっとアピールすることも大変重要だと思う。

この100周年の節目にどのようなことができるのか、何らかの企画などについて検討したい。

小島 正春 議員

質問1 小学校における漢字検定と、中学校における英語検定の実施について

児童・生徒の学力アップを図る上において、教員のスキルアップも大事ではあるが、まず児童・生徒に勉強に対する興味を持ってもらう事が大事である。

個々の能力をよりアップし、小さな小さな島国でもやれば出来ると思ってもらえるように、またより良い教育環境を提供する上においても、財団法人が実施している漢字検定と英語検定を小中学校で受検させる機会を設けるのが望ましいと思うが、所見を伺う。

回答 教育長

平成25年度に小学校では37名が漢字検定を受検している。

また、中学校では漢字検定を15名、英語検定を5名がそれぞれ受検をしており、いずれも、試験日等を周知して、希望者のみが放課後の時間を利用して受検をしている状況である。

このように、子供たちが自発的に受検科目を選択して受検する活動は、授業で学んだことの力試し、あるいは

は興味や意欲を抱く学習活動として、大変に望ましい姿であると思う。

学力向上のためには日常的な授業の中でしっかりと学ぶことが重要であり、検定の受検は、学んだ成果と力を試す機会であると考えている。

検定には、漢字・英語に限らず、他の教科でも様々な検定があることなどから、子どもたち自身が、自ら受検したい科目を選択して受検することが望ましいものと考えている。

教育委員会としては、指導力向上のための教職員研修や学習教材の整備、活用など学校と連携して学力の向上に取り組むたいと考えている。

質問2 中学校での島外遠征の参加助成の在り方について

1年生の時から大会の雰囲気を実感し、上手な選手のプレーを眼で盗むことも大切である。

西ノ島の宝である子供達に一番に目を向け、離島のハンディを少しでも克服し、生徒のやる気を促し、本町のバスケットボール・バレーボール・ソフトテニスの技術の向上と底辺の拡大を図る上でも、また教育の一環として部活動の在り方において、各大会での部員全員の参加が望ましいと考えるが所見を伺う。

回答 教育長

従来より、選手派遣については一定のルールに基づいて、県大会については出場権を獲得すれば、団体競技については部員全員を参加させ、個人競技については登録選手に限って、必要経費の7割を助成している。ただし、隠岐島大会については、団体競技、個人競技を問わず、登録選手のみに必要経費の10割を助成している。少子化の影響によって、生徒数あるいは部員数も減少しているということなどから、現在のルールの見直しについて、今後、検討したいと考える。

安達 静香 議員

質問 再生可能エネルギー導入について

4月3日に新聞報道された中国電力の蓄電池実証実験事業についての詳細、それに伴う電源設置場所、そして今後の再生可能エネルギー導入に対しての本町の取り組みについて伺う。

回答 町長

中国電力が環境省の補助金を活用して、今年度「ハイブリッド蓄電池システム」を町内に設置し、来年度から3年間、太陽光や風力発電によ

る電気を蓄電池に溜め、安定供給を図る実証実験を本町で実施することになった。中国電力からの説明では、特性の異なる2種類の蓄電池を組み合わせた蓄電池システムを黒木発電所の近くに設置し、実証実験を行う国内初の取り組みとなり、現在、用地測量・ボーリング調査などを行っていると聞いている。

また、この実証実験には発電施設として風力発電で4,000kw（キロワット）、太陽光発電で3,000kwの施設が必要となり、島前では風力発電施設を2基、島後ではメガソーラーの設置が計画されている。

島前で計画されている風力発電施設は、中国電力が事業者を募り、本町で1基、海士町で1基建設する予定となっているが、高さが121mの大規模なものであるため、資材運搬に係る道路事情等も考慮しながら、設置場所については、中国電力と協議する必要があると考えている。

今後の再生可能エネルギー導入に對しての本町の取り組みについては、第5次西ノ島町総合振興計画にもあるように、様々な資源のエネルギー利用の可能性も踏まえた新エネルギー計画を策定し、それに基づいて取り組んで行きたい。

富谷 修司 議員

質問 島らん事業について

西ノ島の自然、地形を生かして走るマラソン大会「西ノ島サンセットマラソン」と称し、交流人口の増加を図る目的として実施され、今年度も10月に開催される予定であるが、1回目の反省もふまえ、どの様に取組む予定であるか伺う。

回答 町長

世界ジオパーク認定記念大会として、第1回目の「西ノ島サンセットスカイラインマラソン」を実施した。2キロから20キロの4つのコースに、140名余りのランナーが参加され、翌日には摩天崖の遊歩道を中心にトレイルランの体験を実施した。

当日は、天候にも恵まれ、目の前に広がる壮大な美しい自然景観、中でも島前カルデラや国賀海岸の絶景には大変感動したとの多くの声をいただいた。

一方で、反省点として、情報発信が不足していたことや交流不足、あるいは「おもてなし」が足りなかったこと。また、折り返しコースで同じ箇所を複数回走る点などが参加者

から指摘を受けているので、これらの点について改善を行い、そして「次回も参加したい」と思ってもらえるように、町民、地域をあげて「おもてなし」の心で全国からのランナーをお迎えしたいと思っている。

今年度の実施案については、昨年度の反省を活かし、浦郷港周辺を発着場とし、国賀海岸などの絶景を眺望する周囲コースを基本に考えており、町民の皆様との交流を意識した応援しやすい環境を整えていきたい。今後、関係者と精力的に協議を重ね、参加者や町民の皆さんに満足していただけるような息の長い大会に育てていきたいと考えている。

平成26年全国消費実態調査

本年9月から11月までの3か月にわたり、平成26年全国消費実態調査が実施されます。

この調査は、国民生活の実態を家計面から明らかにするためのものです。調査結果は、経済・社会施策の基礎資料として、また消費・経済分析の貴重なデータとして広く利用されます。

調査の内容は、主に家計簿を記入していただくことです。厳重に個人情報保護していますので、安心してご記入いただくようお願いいたします。調査員が皆様のお宅をお伺いしましたら、ご多忙中恐れ入りますが、ご協力をお願いいたします。

西ノ島町役場 議会事務局

電話 (6) 0101